

平成30年度

施策評価表(平成29年度の実績評価)

記入年月日

平成 30 年 6 月 1 日

施策 No.	政策名	生きがいを育む学びのまちづくり	主管課	生涯学習課	主管課長名	大宮 利和
2-3	施策名	青少年の健全育成	関係課	学校教育課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
	市民(青少年とその保護者、地域住民)	①桜川市人口		人	見込値	41,278	41,008	40,738	40,467
実績値			41,278						
②青少年人口			人	見込値	6,270	6,250	6,200	6,180	6,130
		実績値		6,682					
					見込値				
					実績値				
施策の意図	成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
心豊かにたくましく育っている。	①心豊かにたくましく育っていると思う市民の割合		%	目標値	47.0	48.0	50.0	51.0	53.0
				実績値	48.0				
	②コミュニティスクール参加人数		人	目標値	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800
				実績値	1,833				
	③「青少年の健全育成に協力する店」登録店舗数		店舗	目標値	127	129	131	133	135
				実績値	118				
				目標値					
				実績値					
成果指標設定の考え方	心豊かにたくましく育っている成果指標については、①心豊かにたくましく育っていると思う市民の割合をアンケートにて調査。また、土曜日の活用の一環として実施している地域教育力推進事業(②コミュニティスクール)参加者人数を把握。③「青少年の健全育成に協力する店」登録店舗数の把握。								
成果指標の把握方法と算定式等	○対象の①桜川市人口は、毎年10月1日の常住人口。②青少年人口は、毎年4月1日の住民基本台帳による20歳未満の市民より求める。 ○①心豊かにたくましく育っていると思う市民の割合は、市民アンケートより求める。②コミュニティスクール参加人数は、各コミュニティスクール実績報告より求める。③「青少年の健全育成に協力する店」登録店舗数は、「青少年の健全育成に協力する店」登録店舗数実績報告より求める。								

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)		
実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がすべて向上した	<input type="checkbox"/> 向上した成果が多かった
	<input checked="" type="checkbox"/> 低下した成果が多かった	<input type="checkbox"/> 成果がすべて低下した
背景・要因	心豊かにたくましく育っていると思う市民の割合は、平成28年度は45%でしたが、平成29年度は48%と3ポイント増加している。真壁地区小学校、羽黒小学校で実施しているコミュニティスクールについては、参加者数に大きな変化はない状況です。「青少年の健全育成に協力する店」の登録店舗数は、平成28年度が岩瀬地区52店舗、大和地区16店舗、真壁地区54店舗、計122店舗、平成29年度は、岩瀬地区49店舗、大和地区16店舗、真壁地区53店舗、計118店舗となり、4店舗減少しています。減少の理由としては、コンビニ等の普及により、タバコの専売店等が閉店したことが挙げられます。	
2) 成果目標の達成状況		
実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値を上回ったものが多かった
	<input type="checkbox"/> 目標値を下回ったものが多かった	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った
背景・要因	①心豊かにたくましく育っていると思う市民の割合は目標値を1.0ポイント上回った。 ②コミュニティスクール参加者については33人目標値を上回った。 ③「青少年の健全育成に協力する店」登録店舗数については、9店舗、目標値を下回っている。	

3. 施策の成果実績に対する総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対する総括	今後の課題・方針
○青少年健全育成事業において、貢献度の高かった事業は下記のとおりである。 ・はたちの集い はたちの集い実行委員会(新成人で構成)を中心とし、式典内容、構成を決定し式典を運営していくことで、形にとらわれない、オリジナルな式典の挙行がされている。参加率も80%は超えている。 ・「青少年の健全育成に協力する店」登録店舗数について、減少傾向にある。	・少子化により、新成人を迎える人数が減少していることから、参加率を今以上に向上させる。はたちのつどい実行委員の選任が難しくなってきたことから、今後、検討が必要である。 ・桜川市青少年相談員を通じて、新規登録店舗の確保に努める。